

総括

日時

2005年12月27日(火)から2006年1月22日(日)
予定では、1月16日終了の予定を22日まで延長した。

テーマ

見る人が、各アジアの国の作家の作品を通して、お互いのルーツを感じて交流できること。
あるいは、作家が他の国の作家と交流すること。

コンセプトと作家選定のプロセス

アジアの国は以前から工芸と芸術の区別なく、アートが人々のコミュニケーションの行われる場の主役だった。別の言い方をすれば、アートは、人々のコミュニケーションの道具だった。時代が進む中でアートは、現代の中で個人が鑑賞するもの、ビジネス上で取引されるものになっている側面がある。それは、バリでもどこでもそうである。バリでは、芸術をコミュニケーションのツールとして、長い間村落共同体で行われるお寺での舞踏であり、絵であり、彫刻であり、お供えであった。それらがバリ文化として培われていた。しかしこのごろは、純粋絵画や彫刻といわれるのみがアートとして考えられている。芸術環境を信仰するものとしてその流れに棹さしながら、別の価値観からアートを見るということを忘れない展示会としたいと願った。別の価値観からみることを提示できることが、私達にできることであり、使命であると考えている。

今回の展示会は、アジア的なアートの観点から、アートをコミュニケーションとして行動している作家を選定した。あるいは、いろいろアジアのルーツをさがすという観点から、なるべく違った材料、技巧を使っている作家を集めた。材料としては、ガラス、木、ブロンズ、金属など多種の材料を使った多様な作家の作品が集まった。

具体的には、日本からの作家に関しては藤原教授にキュレーターとなってもらい、インドネシア、マレーシア在住の作家は、作家案を出してもらいピダダリアートが選定した。

会期中に展示以外に行われたこと

- 1、オープニング
- 2、芸術関係者とのディスカッション
- 3、西岡泰心氏によるバリの職人とのワークショップ
- 4、地域の各学校の生徒による展覧会観覧

これらの詳細報告は、写真とレポートにて別紙に譲る。

反響や影響

1、 彫刻の村マスで行われた展示会であるので、ギャニャール県庁の協力のもと、マス村の芸術環境育成、観光振興という成果をあげることができた。2004年12月27日から行われたマス村の彫刻家を集めた展示会"Lehah-leha"、マス村の彫刻の歴史や成り立ちを報告した展示会から今回から2回目の展示会であった。両方ともマス村の彫刻芸術環境育成をひとつの目的とした展示会であった。第1回目でその芸術性や歴史を説明した後、その影響が首都ジャカルタの芸術界に再度マス彫刻を知らしめるに至った。今年は、予定であるがナショナルギャラリーでのマス彫刻展が予定されている。地元が変わっていくまでにはなっていないが外からの影響で地元も腰を上げていってくれることを期待する。

今回の展示会はその影響は、今後に期待するとするが、第2回目でマス村の彫刻がアジアの芸術家と肩を並べて展示会されたことにより、更にその価値が認められることを希望する。

2、 バリでは、テロ事件もあり観光は冷えきっている。しかし、その与える影響がいかなるものであろうとも、今後ともバリ芸術、文化は情報を世界に発信し、世界に出て行かなければならないと考える。バリ芸術は、以前から西洋と一緒にあって発展を遂げ、文化環境育成も西洋の手法を用いて、成功してきた。そして、アートビジネスマネージメントはジャカルタ中心にバリでも発達してきたが、バリ観光開発が飽和状態にあり、その芸術環境も歴史の転換点にあるバリがどのような新しい道を見だしていくのか興味深い。バリピエンナーレが始まったことも人々の無意識の気づきがあつてのことと考える。

それで、我々としては、今後の方向を自分たちのルーツを探るという方法で新しい道を見つけ出すこともひとつの方法であることを提示してゆきたいと思う。そして、The Roots of Asiaというテーマのもと今後も展示会や催しを行っていききたいと思う。

3、 今回、日本やマレーシアの方々と交流できたことで、大変たくさんのヒントや思いやりをいただいた。それを今後の活動の

基礎にしていきたいと思う。マレーシアのキュレーターの方からは、マレーシアにある今まで顧みられなかった工芸品といわれるすばらしい芸術作品、材料は木に絞っての展示会をバリからの作家をまねいて、マレーシアナショナルギャラリーで開催したいとの意向が話された。

*新聞や雑誌の詳細記事は別紙に譲る。

今後につなげること

1、今後とも the Roots of asia というタイトルで行う展示会やプロジェクトを立ち上げてゆきたい。なぜなら、前述したように転換点にあるバリにとって、自分のルーツを探るといことも有効な方法であると思う。

2、交流できた方々と一緒に更に交流を深めていけたらと思う。そのためのプロジェクトの詳細は、今後に譲る。

2006年1月19日

BIDADARI Art
I Made Sudiana
和田浩美